

平成 29 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム ポラン広場いなせ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500105		
法人名	株式会社 文化タクシー		
事業所名	グループホーム ポランの広場いなせ		
所在地	〒023-1132 岩手県奥州市江刺区稲瀬字水先629		
自己評価作成日	平成29年12月11日	評価結果市町村受理日	平成30年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou.detail.2017.022.kani=true&amp;I.gyosyoCd=0391500105-00&amp;P.efCd=03&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou.detail.2017.022.kani=true&amp;I.gyosyoCd=0391500105-00&amp;P.efCd=03&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 12 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2011年2月1日に併設する小規模多機能型居宅介護事業所と共に同時に開設し、今年で6年目を迎えた事業所です。当事業所の介護理念である『共に向き合い・共に笑顔で・共に支え・共に生きる』を職員間で共有認識し、職員と利用者様が信頼しあい、公平な立場で尊重しあい、常に変わらぬ自然体で接しながら毎日を平和に過ごさせて頂いております。職員はスキルアップを図る為に、他施設職員との交換研修を毎年行い、講師をお招きしての内部研修会や、外部研修についても認知症実践者研修をはじめとして、岩手県認知症高齢者グループホーム協会開催の研修参加等の県内の研修のみならず、県外で行われる研修にも自主的に参加し、資質の向上に積極的な体制をとっております。又、それらの研修で得たものを施設全体に反映して事業所全体の向上にも繋げております。地域密着の観点についても、運営推進会議での意見交換や地区の自治会・振興会での忘年会・新年会等に招待を頂き、コミュニケーションを図りながら良い関係を築いていく様にしております。地域の防災訓練にも参加し災害時における避難経路や協力体制の確立に繋げております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新幹線沿いの田園地帯にある広い敷地に、小規模多機能ホームと併設されて当グループホームがある。施設内のリビング、廊下等の共有空間は広々として、色調も明るく、居室はパネルヒーター、廊下、ホールは床暖房とし、全体的に採光・温度設定に配慮している。共に向き合い、笑顔で支え合うことを目標とする理念を掲げ、全職員が些細なことでも「気づきノート」に記録し、共有し合い、絶えずケアのレベルアップを図っている。また地域との繋がりも、環境的に難しい面はあるものの、会報等で呼びかけ、或いは、介護に関する相談等も随時対応するなどにより、理解を深めている。運営推進会議には消防、警察もメンバーとして参加し、防災ははじめ多方面にわたる話し合いがなされている。また、スキルアップを念頭に、職員は内外の研修を積極的に受講している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム ポラン広場いなせ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰でもが見える場所に職員全体で作成した介護理念を掲示し、毎日朝礼時に職員全員で唱和して意識の共有と周知を図り、日常の支援の実践に繋げている。	共に笑顔で支え合うことを謳った理念を、毎朝唱和することで、日々の活気あるケアへの取り組み姿勢が窺える。毎月の全体会議時にも、話し合いの中で振り返りながら、それぞれの翌月の目標を定めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地域の自治会や振興会の行事等に参加し、コミュニケーションを図ると共に地域の情報交換も行いながら親睦を深め、地域の一員として交流するべく努力している。ボランティアの方にも不定期ではあるが来所して畑作り等のお手伝いをして頂いている。	近くの散歩時に地域の方々とは、努めて挨拶を交わし、また事業所の夏祭り等の行事や地域の新年会、バーベキューには案内し合っている。過去に北上市の中学生の職場体験教育の受入れも行った。	環境的に子供達との関わりが、難しい面はあるが、保育園や学校関係者への声掛けなどで、推進会議に参加して頂き、利用者の更なる生きがいに繋がるよう、運動会、クリスマス会等での交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場では認知症についての理解度についてはある程度進んでいると思われるが、その他の地域への貢献度については、まだまだ十分とは言えない状況のまま今日に至っている。今後も機会を捉えて、地域全体に理解をお願いして行くと共に、相談等にはいつでも応じられる様、体制を整えていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、事業所での支援内容・行事内容・取り組みについての報告を行い、構成員の方々と意見交換を行い・要望等をお伺いし、サービスの向上に活かして行く様努力している。 その他の雑談timeに冗談を交えながら活発な意見交換を行っている。	報告・連絡・語り合いの流れで会議の進行が行われている。消防署や駐在所からの提言・指導が日頃の災害対応の改善に役立っている。避難場所の変更や目安看板の設置、会報の文字の大きさなど様々なテーマの話し合いの場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の構成員をお願いしており、会議に出席していただき事業所の問題点等の意見交換を行い、問題解決とサービスの向上に努めている。 市からの介護相談員も定期的に訪問して頂いている。	推進会議に市の担当者も出席している。生活保護担当者や介護相談員も定期的に来訪し、電話で何時でも指導・助言頂ける間柄である。居室の空き状況に関しても緊密に連絡を取り合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状では全職員の正しい理解にまでは至っていない様に思えるが、実践やミーティングの機会等を通して利用者様の基本的生活を守る為の身体拘束禁止の重要性について理解していく様取り組んでいる。	ホーム内外の研修を受講し、身体拘束排除マニュアルを活用しながら、利用者それぞれのリスク回避を念頭にケアに当たっている。特に不適切な言葉については、その都度管理者が注意・指導をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対的に見過ごされてはならない行為である事を職員間で周知徹底し、事業所内だけの問題にとどまらず、全社的にも、各所でも看過される事の無いよう注意をはらい、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、未だに取り組みや勉強会ができておらず、概要については理解していると思われるが十分であるとは言えない為、今後職員全体での取り組みや勉強会を調整していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書や重要事項説明書等を提示し、内容について、なるべく詳しく説明し、要望・質問・疑問等にも十分に理解して頂ける様にわかりやすく説明し、納得して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的開催される運営推進会議や利用者個別の担当者会議に家族にも出席していただき、状況の報告と意見交換を行い、出来る限り運営や支援に反映させる様に努めている。	担当者会議や面会の際にこちらから家族に意見を伺う様にしている。意見・要望のきっかけになることも期待し、毎月家族には請求書と一緒に連絡書を送っている。家族から、運営推進会議時に介護保険の内容が知りたいとの要望があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員意見については、毎日の引継時のミーティングや毎月の全体会議を主に、日常的にいつでも意見や提案を発言できる環境を整え、気付きノート等も常設して職員間の情報の共有と改善に繋げる様に図り、運営に反映させようとしている。	職員の日常的な気づきを大切に、気づきノートを事務室に置き、介護支援と職場環境の改善に繋げている。月1回の職員会議には本社の常務が出席し、経費節減案や設備更新案など、可能なものから直ぐに具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は自己評価票や管理者の意見を参考に、職員の勤務状況や実績を把握し、管理者も職員個々の思いや考えを聞き取って働きやすい環境を整えるようにすると共に、やりがいや向上心に繋げるよう務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内等の掲示板を設けており、職員が受けたい研修があれば自ら選択して参加希望によって調整を図り極力参加できるようにしている。職員の力量によって必要と思われる場合は管理者が指名して研修に参加する様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県GH協会奥州ブロック内で行われる職員交換研修で同業各事業所と連携をとりながら職員交換研修を行い、援助方法やサービスについて等の違いを学び、良いものに関しては日常におけるサービスに反映させて質の向上につなげるようにしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用希望があればサービス前にご本人や家族様が不安に思っている事や困っている事の疑問や要望等があれば聴取して出来るだけ丁寧に説明し、利用前の訪問調査により情報収集を行い、ご本人の要望に出来るだけ対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に出来るだけご本人と家族様が一緒に来所して見学をして頂き、不安や要望等、その他のどんな小さな事でもお伺いし、コミュニケーションを大切に、話しやすい雰囲気を作る様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前にご本人と家族様の意向や状況の把握を行うと共に、利用開始後も情報の収集と把握に努め、本人に最も適したサービスが利用出来るように務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所のテーマ『共存』が基礎となる介護理念である『共に向き合い・共に笑顔で・共に支え・共に生きる』の精神を基本として、職員と利用者と同じ場所・同じ時間を共にすごして相互理解と信頼関係を築けていける様に努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と事業所が共に利用者を支えて行ける様、普段の生活状況や身体状況等の報告を行いながら、本人の支えとして協力をいただけるような環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・知人・友人等、全ての方の面会時には、いつでも遠慮や気がねなく来所していただき、ゆっくりと過ごして頂ける様な環境を作る様心掛けており、家族との外出や外泊も支援して馴染みの場所や人との繋がりを大切する環境作りに努めている。	毎月、訪問する床屋さんが皆の馴染みとなっている。利用者に寄り添い、さりげない会話を通して得た馴染みのヒントを個別に気づきノートに記録し、職員間で共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や互いの共通性を把握し、気の合う同士が交流を楽しめる場を設定したり、全員が一緒にの行事やレク活動を積極的に行って良い関係が構築できるような支援を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、必要があればいつでも相談に応じる体制で有る事を説明し、これまで築いてきた関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の行動や会話や表情等を観察し、その中から思いを把握するように努め、家族様からも情報の収集を行い出来るだけ利用者に沿った支援ができる様に心掛けている。	1日の生活は、本人の思いに任せ自由に過ごすことを基本にしている。意向の把握が難しい方には、声掛けや寄り添いを通じて、その態度や表情から思いを推し量りながら本人本位のケアに徹している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始の希望があればそれまでの家族や本人の生活歴や病歴、環境等、情報の収集を出来るだけ行い、フェースシートやアセスメントシートを作成し、把握に努めると共に、その後のサービスに活かせるよう務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の経過表、バイタル記録表・食事摂取量・水分量・排泄表を基に、日々の生活状態の観察を行い、心身状態の現状把握に努め、共有して出来るだけ個々の生活が安定できる様務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや全体会議等で利用者個々の情報交換や確認を行い、意見や課題があれば検討して支援方法や計画の見直し等、解決に向けて話し合い、必要であれば家族参加のケアカンファレンスを開催する等して現状に即した介護計画を作成している。	職員間では日々のミーティングなどで出た情報を確定ノートに記入し、家族からは毎月の精算時や通院時に来訪した際に話し合い、担当職員の意見も入れて管理者とケアマネで計画をまとめている。必要に応じ看護師の意見も参考にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過表やバイタル・排泄・食事摂取量・服薬・処置等の記録を共有し、変化や改善が必要と思われる場合は随時情報交換を行って、実践や介護計画に活かされるように務めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々の状態や変化に応じて、柔軟なサービス内容や支援方法で対応できるよう全職員が心掛けて実践に活かすよう務めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り等の行事の際は自治会長や区長を招待し、近隣の産直にも協力していただきながら利用者と地域の交流を図る様な支援を心掛けており、ボランティア団体や保育園児による慰問もお願いする等して、何らかの楽しみを通して心身の安定を図るよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用開始時の重要事項の説明と共にかかりつけ医については、心身の状態を把握しているそれまでの医療機関の継続が望ましい旨と受診支援は基本的に家族対応が原則となっている旨を伝えており、やむを得ない諸事情により家族対応が困難な場合は職員が支援にあたり病院と事業所の適切な関係を構築する様心掛けている。	殆どは以前からのかかりつけ医を受診している。看護師が日頃の看護記録を作成しており、受診の際にはその記録を医師に提供している。各種予防接種は利用者個々に対応して頂いている。病院と事業所の連携は欠かさない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は日常に職員からの情報や気づきに対応しており、利用者が受診の時は病院との連絡もとっている職員は祝祭日や夜間等でも利用者の状態に変化が見られる等の特変時は看護師に電話連絡がとれる体制が整っており、協力して支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関との情報交換を行い、連携して情報の共有を行っている。退院時にはカンファレンス等を通して病院の相談室や関係者から経過や状況の情報交換を行い、今後の方向性について等、家族様も含めて相談しながら連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用前に家族には終末期や医療的処置について当事業所に対応出来る事と出来ない事の説明を行い、当事業所に対応できない事になった場合には、他の事業所や病院関係や特養・老健等の情報も交えながら本人・家族等と話し合いを行って理解して頂いている。	看取りの経験のないことは、早い段階で利用者や家族に説明している。急変した場合には、看護職員と相談しながら医師常駐の施設や医療機関での治療をスムーズにできるよう、移送の手続きを支援する。看取り対応に向けては、看護師中心に研修を続けるとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルや消防署・警察署・家族様・管理者・看護師等の緊急連絡先を掲示し、職員が速やかに対応出来る体制を整えと共に、応急手当やAEDの使用法の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行われる避難訓練(1回は消防署立ち会い)を全職員を対象に実施しており、地域の防災訓練にも参加させて頂き、運営推進会議を通して緊急時には地域における協力体制も整えつつある。	年2回定期の避難訓練を実施している。併せてAED研修も行っている。防災マニュアルも備えてあり、呼び出しボタンひとつで全職員の携帯に繋がる。3日分の非常食も確保してある。現在の避難場所は距離的に問題があるため、見直しを検討中としている。	近距離への避難場所の再検討や確実な地域との協力体制と役割、大地震時のとっさの取るべき行動などを課題として、全体会議時や推進会議時に話し合うことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重し、職員の言葉遣いや態度に配慮がなされる様に周知している。又、記録の名前や写真等の個人が特定出来るものの取り扱いに配慮がなされるよう周知している。	排泄の誘導は小声でそっと声掛けしている。言葉づかいや慣れなれしい態度をとり過ぎないように、職員間で注意し合い、管理者も個別に注意・指導している。写真や記録などの取り扱いには特に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や自己決定の意思表示できる環境作りや声掛けを行うようにしており、出来るだけ個々のニーズに応えるような支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの日常における生活のペースを職員も理解し、個々の希望に沿った支援や声掛けをするよう心掛け、本人の意向を尊重するよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望や季節感に合わせて洋服選びが出来る様に支援しており、整髪についても毎月1～2回業者に依頼して訪問して頂き、身だしなみや清潔に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食については配食業者に委託しており、利用者状況によってはそれをミキサー食にして提供しているが、たまに近隣の産直で食材調達して調理法を一緒に考えていただいたりしている。食前・食後のテーブルやトレイ拭きもお手伝いしていただいている。	献立表は管理栄養士が立て、ホームではご飯と味噌汁を作り、副食物は配食業者が納入している。おやつは利用者の希望を聞いて皆でつくっている。食前食後には出来る方が率先して手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録し、個人の状態に合わせて摂取量や形態をキザミ食やミキサー食に変える等して、健康状態の管理に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は利用者様個々の能力にあわせて、声掛け、見守り、一部介助、義歯洗浄、全介助等の援助を行い同時に口腔内状態の確認を行って、異常がみられた場合は家族に連絡して歯科受診等の対応をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを記録・把握し、時間や状況を見て声掛けやトイレ誘導をする等、排泄の自立に向けて支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとり、そっと声掛けし、トイレ誘導することにより、紙おむつを使用しない排泄の自立に繋がるケアに取り組んでいる。おむつやパットに関しては家族とも相談の上で使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録で状況を把握し排便が見られない場合は看護師と連携をとり、水分摂取や適度の運動等で自然排便を促す様に心掛けているが、改善が見られない場合には主治医から処方された下剤を使用し、排便の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴日を設けて清潔を心掛けているが、利用者の個々の状態や入浴が必要と思われる場合は随時入浴していただいている。入浴拒否等のある場合は時間をずらす等して入浴していただき、清潔に配慮するようにしている。	利用者の体調に配慮しながら、概ね夏場は週3回・冬場は週2回の入浴としている。小規模多機能ホームの機械浴も一部利用している。体調が悪く入浴できなかった方は、曜日や時間帯をずらして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々の生活パターンを把握すると共に、体調や希望によって自由に休息できる環境を作っており、日中は適度な活動を促し、生活リズムを作る事で安眠できる様に支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬剤の情報や処方箋はファイルに保管し、職員は必要に応じていつでも閲覧して用法や用量について把握している。副作用についても概ねの理解はあり、服薬による変化の確認にも務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴の情報の中から得意な事や趣味を活かすよう心掛け、手慣れた干し柿作りや花作り・野菜作りのお手伝いをさせていただいたり助言をさせていただいたりしている。室内では連続TVドラマやスポーツ観戦、カラオケ等を楽しんでおり、天気の良い日は近所を散歩したり、ドライブ等して気分転換となる様に支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の花見や秋の紅葉の時期には、天気の良い日にドライブを行い、その他の季節においても利用者から希望を聞き、天候や気温を考慮しながら極力外に出る機会を設け、季節の移り変わりや変化のある風景を楽しんで頂いている。	晴れた朝は車椅子の利用者も一緒に散歩に出かけている。北上展勝地や藤原の里へドライブに出かけたり、帰りにコンビニで買い物を楽しむなど、努めて外気に触れる機会を作っている。墓参りには家族と共に外食を楽しまれる方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、お金の紛失や利用者の思い違い・物忘れ等によるトラブルを防ぐ為に日常的に金銭の所持は遠慮していただいております。本人が使用したい様な場合は立て替えておき、後日家族様への請求書と共に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人と家族等との電話を通じての会話を援助する等、外部との交流が途絶えないよう、出来るだけ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は共同作成した作品を飾ったり、季節を感じられる花等を飾り、利用者のテーブル配置についても不快感を感じないように配慮し、必要に応じて照明も電気だけでなく彩光や遮光して調整しており、室温・湿度の調整、換気にも気を配り、なるべく居心地良く過ごして頂ける様な工夫を心掛けている。	天窓から明るい陽光が差し込む談話室には、利用者・職員と合作の切り絵、貼り絵、ぬり絵等が掲げられている。イベント時の利用者の笑顔の写真と共に、クリスマスツリーが3か所に飾られ、思わず安らぎを覚える。職員の工夫と努力が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の落ち着いた場所でテレビを観たり、新聞や雑誌を読むなど、また気の合う同士で話しをする為に座る席を配慮する等、出来るだけ落ち着いて居心地良く過ごせる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご本人や家族様と相談し、居室あるいは泊まりの部屋は使い慣れた物や馴染みの物・思い入れのある物・家族写真等、本人が落ちつける物を置く様にお勧めして、出来るだけ居心地の良い空間になる様配慮している。	ドアには一人ひとり異なる花の名と氏名の表札を掲げている。時計やカレンダー、家族写真等が持ち込まれ、建物全体が床暖房によりほんのりと暖かい。清掃は職員が行い、全体的に清潔感が漂っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の状態や出来ること・出来ない事・わかる事・わからない事等を把握し、貼紙で理解しやすい様に表示したり、一緒に洗濯物干しやたたみ作業等を行い、できるだけ自立した生活が送れる様に工夫して支援している。		